

## 本・人・旅



上川北部医師会  
名寄市立総合病院

室野 晃 一

表題を見てお気づきの方もおられると思うが、最近のベストセラーである出口治明著『人生を面白くする本物の教養』からのパクリである。著者は「本・人・旅」が教養の源であり、それを培ってくれるとしている。しかし本を読む、人に会う、旅に出るのは教養を得るためではなく、単に「面白い」からという理由だけでそうしているという。さて、現在の私の楽しみ、面白いと思っていることは何かと考えてみると、まさにこの三つであり、これらについて筆を執ろうと思った次第である。

まず本である。もともと本を読むのは好きではなかった。学生時代は自由な時間が豊富にあるためいくらかは読んだものの、医師になって駆け出しのころは診療に明け暮れ、その後長かった大学勤務時代は、それに加えて研究などにも時間を割かれ、余った時間は飲みに出るという状態で、専門書や文献以外にはほとんど書物に触れることがなかった。このような私を見て妻には「こんなに本を読まない人は見たことがない」とまで言われる始末であった。ところが十数年前に大学を離れ地方病院に勤務してからは、時間にやや余裕ができたこともあって、少しずつ本（ここでいう本とは教養とは無縁の私が読む本なので小説が中心）を読むようになった。読み始めているうちにどんどん面白い作品に出会うようになり、ときには感動のあまり目頭が熱くなっていることもある。以前の私には考えられないことである。好きな作家も何人かできてくる。その作家の新刊が出るとすぐ書店に駆け込むこともあるが、図書館に真っ先に予約したりもする。ただ最近では、中古本販売チェーン店で廉価になって出回るのを待つ余裕も出てきた。面白い本に出会うのは実に楽しい。

次に人。職業柄あるいは現在の職場上、そう多くの新しい人と出会うことはあまりないが、たまに院内研修で講演に来ていただいた先生の中には、興味深いと言っては失礼だがいろいろ教えられる人がいる。講演そのものも非常に面白いが、その後の宴席でのいろいろな話も有益である。しかし、やはり付き合っていて楽しいのは、現在あるいは以前一緒に仕事をしていた、いわゆるウマが合った同僚（後輩であることが多い）である。中でも現在はその分野で日本のリーダー的存在になっている人や、大学で要職についている人たちと学会などで会ったときの夜は時間を忘れて痛飲してしまう。懐かしさだけで楽しいのではなく、現在のそれぞれの立場からの話は

学ぶことが多い。

最後は旅。これも楽しくなってきたのは現在の病院に勤めるようになってからである。病院内のゴルフ部では例年2月にツアーを組んで宮崎、鹿児島など国内でプレーしていたようであるが、私が勤務し始めた翌年より場所をタイに移した。ご存知の方も多いと思うが、この時期のタイは乾季で雨の心配が全くなく、コースも豊富、料金も安くてゴルフ天国と言ってよい。ただ片道6時間ほどであるがエコノミークラスでの移動は苦痛であった。ところがタイあたりだと数万円上乗せするとビジネスクラスで行けることに気付いた。大学勤務時代に外務省の要請で在留邦人の巡回診療で中東へ行った時以来のビジネスクラスであったが、すこぶる快適であることを再認識した。普段飲んでいるものより明らかに上質なワインをキャビンアテンダントに勧められるがままほろ酔いを通り越すまで飲んだ後、シートをフラットにしたこれまた質の良い眠りから覚めると着いているのである。これ以降、海外旅行はビジネスクラスで行くことに決めた。これを一人で享受するのはさすがの私も気が引け、ここ数年は妻と一緒に二人で各地を旅している。もっとも勤務医の懐具合ではヨーロッパなどは気軽には行けないが、ハワイくらいまでなら何とかかなる。というのも最近ではネットで航空券とホテルだけの申し込みですとビジネスクラスでも割と安い。現地での観光地に行くか、どこのレストランで食べるかは妻が毎回事前に計画しているのだが、着いてからそれらを知らされる私にとっては行き当たりばったりの旅となる。移動はほとんど電車、地下鉄、バスなどの公共交通機関を利用する。すると安上がりな上、土地勘のようなものもできるのと、街の雰囲気や人々の生活ぶりも身近に感じることができ、何となくその街が分かったような気になるのである。今はこうした旅が気に入っている。

以上、教養とは無関係の、私にとってただの楽しみ「本・人・旅」である。